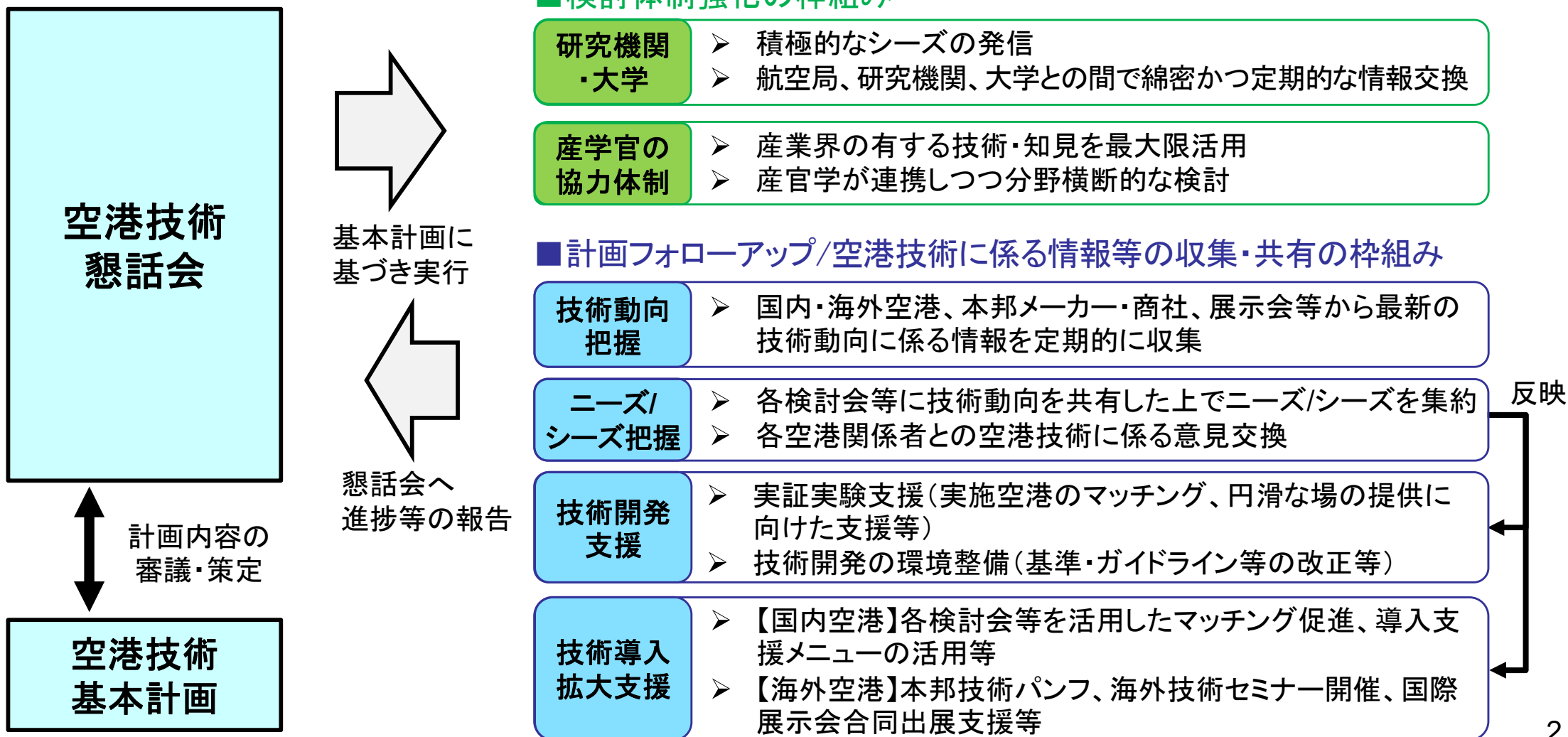


前回懇話会からの主な変更点等

前回懇話会からの主な変更点等

主な修正点① フォローアップの枠組み

- 空港技術基本計画に盛り込まれた取組の進捗に向けて、検討体制の強化や、取組状況のフォローアップ、社会情勢等の変化等を踏まえた必要な改善を図ることが重要となる。
- 本計画の定期的なフォローアップ含め、空港技術に係る情報等の収集・共有は「空港技術懇話会」を中心とし、「技術動向把握」、「ニーズ/シーズ把握」、「技術開発支援」、「技術導入拡大支援」の4つを柱として実施する。



前回懇話会からの主な変更点等

主な修正点② その他委員意見等を踏まえた修正

- 前回懇話会での各委員意見を踏まえた主な修正内容は以下のとおり。
- 懇話会の場に限らず、様々なヒアリングの機会を通じて、メーカーや商社・空港管理者等、懇話会委員以外の様々な空港関係者から空港技術に関する意見を聴取した。その結果により記載の再確認・修正を実施した。

前回懇話会でのご意見	内容
<p>災害時にドローンや衛星を使用することは効果的であるが、日常的に使用していないと災害時に使えないのではないかと。</p>	<p>本文P17 日常的にドローンを使用できるようにドローンを活用した点検技術の導入に取り組む旨追記。また、P30の運用ルールの見直しといったソフト対策と併せて日常的に使用できる環境整備を整える。</p>
<p>基本計画概要に記載のある空港の3次元データ化が基本計画本文には入っていない。</p>	<p>本文28 空港データ基盤の検討において空港の3次元データ化を構築する旨記載。</p>
<p>空港内作業の事故防止が基本計画本文には盛り込めていない。</p>	<p>本文P12 空港内作業の事故防止を記載</p>
<p>骨子の中に記載のある単語が基本計画本文になく、基本計画概要の図の中に入っているものがある。ブラッシュアップしていく上で変えた方が良いのではないかと。</p>	<p>各記載事項について基本計画概要と計画本文との整合を図った。</p>
懇話会以外での意見	内容
<p>技術はどんな現場に対しても即導入できるわけではなく、空港要件や地理的な制約、現場作業内容、関係規定の整備など、様々な条件を勘案して、技術の適用可否の判断や、技術を活用したうえでの最適な作業内容の設計を行っていく必要がある。</p>	<p>本文P30、P35 技術の情報提供やマッチング促進をP30に追記。 新技術の導入に関する柔軟な関係規定の整備によるソフト対策は、本文P30に記載しているが、P35に改めて明記した。</p>
<p>航空業界はイノベーションが早く、開発参入の機会が多いと考えているが、利用者側との意見交換がする機会が少なく、開発ニーズのキャッチアップに苦慮している。</p>	<p>本文P29 産官学の連携について、利用者側のニーズ及び開発側のシーズ並びに国内外の技術動向のすり合わせを行い、検討体制を図る旨を追記した。</p>
<p>開発メーカーは国際市場も視野に入れており、技術開発・展開を活性化させる枠組みが必要。</p>	<p>本文P31 本邦空港技術の海外展開促進のため、枠組みの具体的な取組を追記した。</p>
<p>特定の空港のみの技術導入とならないよう多くの空港への普及を促進するため、各種検討会を活用した新技術の情報提供やマッチングの促進する場が必要。</p>	<p>本文P27 新技術導入の支援として、情報交換の場の活用・促進に関する記述を追加した。</p>